

特集

J-BAC認定
アルコール検知器

J-BAC

アルコール検知器
どれを選ぶ？

2023年12月から一定台数の白ナンバー車（非営業／自家用車両）を保有する事業所を対象に「アルコール検知器を使用した運転前後の検査」が義務付けられている。数多くある製品の中から、どのような製品を選べばよいのか、頭を悩ます事業者は多いのではないだろうか。

第三者機関が品質認証

アルコール検知器メーカー59社（26年7月時点）でつくる「アルコール検知器協議会」（J-BAC、酒井規光会長）では、第三者機関による高い品質・精度を持った機器を認証する「アルコール検知器認定制度」を運用展開することにも適切な使用方法に対する普及啓もうに取り組む。これからアルコール検知器を導入する事業者にとって「J-BAC認定アルコール検知器」は間違いない選択肢の一つとなりそうだ。

体制整備急務だが

事業所単位で5台以上、または乗車定員11人以上の車両1台（大型自動車二輪、普通自動車二輪は0.5台として計算）の白ナンバー車両を保有する場合、アルコール検査の対象となる。合わせて

「間違いのない選択肢」の一つ

安全運転管理者制度における管理者の選任が必要となる。管理者には視認と検査器による酒気帯びの有無の確認や検査実施と計測結果の記録（1年間）が求められる。酒気帯び運転で検挙された場合、数値によっては3年以下の懲役、または50万円以下の罰金が科せられる。何よりも尊い人命を守る観点からも間違いのない確実な検査を実施できる体制づくりが急務だ。

誤認知を防ぐために

アルコール検知器はセンサーの劣化や口内の残留物に伴い、誤った検知内容を示すことがある。誤検知により本来運転させることができないドライバーに運転させてしまいう可能性はゼロではない。逆の計測結果により運転させることができ

ず、業務効率を阻害してしまうことも想定し得る。確実な検査を実施するため、信頼性の高い検知器を導入することにも、その定期的な買い替えが必要だ。

J-BAC認定検知器は、J-BAC会員メーカー事業者製であることが条件。そしてメーカー事業者が課す入会条件は「国内自社拠点に品質管理が行える施設を保持し、「販売時やメンテナンス時に適切なアドバースが行えること」としている。そのハードルは高く、機器の信頼性の高さを裏付ける。

安全運転管理者制度における計測結果の記録について、手書きでも可能だが、業務効率の観点から管理システムを導入を検討する事業者は多い。J-BAC会員メーカーの検知器もシステム連

確実で高い信頼

供している。

高まる社会的な要請

白ナンバーに対するアルコール検査義務化の動きは21年6月、千葉県八街市で発生した「八街児童ら死傷事故」に端を発する。白ナンバートラックドライバーによる飲酒運転で、未来ある子どもたちの命が一瞬で奪われた痛ましい事故として記憶に新しい。

足元では今年9月から生活道路における上限速度が時速30kmに定められるなど交通安全に対する社会的機運は高まりをみせている。飲酒運転根絶に向けた車両を使用するすべての事業者に対する社会的要請もまた今後ますます大きなものになりそうだ。

